

令和3年度授業改善推進プラン

清瀬市立 中学校 第3学年

	授業における課題や学力調査資料から見えた課題	授業改善のための具体策	成果と課題(年度末)
国語	<p>授業では目的に応じて、自ら意欲的に話し合い、考える姿勢が見られ、全国学力学習状況調査の生徒質問紙でも都・全国平均と比べ高い数値の結果となっている。一方、読むことに関しては都平均と正答率に12%の差があり、課題がある。授業でも、文脈の中における語句の意味を正しくとらえたり、場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解したりすることに課題がある。</p>	<p>・語句には多様な意味があり、文脈の中で意味を捉えなければならないことを理解させるとともに、語句の意味を正しくとらえられるような授業を進める。 ・登場人物の行動や台詞、容姿など作者が意図的に書き表したのから、その意味を読み取り、作者の書き表し方を批評する授業を通して、場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読む</p>	
社会	<p>主体的に学習に取り組むための土台となる基礎的な知識量にはばつきが大きい。自宅学習の習慣もついでない生徒がまだまだ多い。社会的事象に対する関心も、一部には高い生徒もいるが、受け身、待ちの授業からの意識の改善が求められ、1・2年生分も含めた学習事項の定着が課題と考える。 また、自身の考えや資料の読み取り等の文章作成の力もつけさせる必要がある。</p>	<p>・授業の色々な場面で、時事的なニュースを関連させながら紹介して、社会的事象に関する関心の度合いを高める。ICT機器を用いた時事問題の調べ学習も行わせる。 ・毎週のワーク提出による復習を行わせ、家庭学習の習慣づけとともに基礎的な知識を定着させてゆく。 ・1・2年の復習として既習事項の単語テストを行い、基本的な知識の定着を図る。 ・小レポートを多くこなし、発言しない生徒も自分</p>	
数学	<p>・数学的な結果を事象に即して説明したり、立式したりすることを苦手としている生徒が多く見られる。 ・基礎的な基本的な技能の定着ができていない生徒が一定数見られる。</p>	<p>・等しくなる理由や成り立つ理由を生徒に発問し、生徒が自ら考えられる授業を展開していく。なぜ成り立つのか考えさせるようにしていく。韓崗、図形単元ではICTを活用し、視覚的に理解できるようにしていく。 ・授業中フォローするとともに、テスト前や長期休業中に補修を実施し、個別支援を行う。月ごとに基本的な課題を出し、困り感のある生徒を支援し</p>	
理科	<p>進路に向けての意識はあるので、取り組む姿勢はある。しかし、主体的に取り組む場面では、基本的な知識の活用ができず、考えをまとめることが苦手になっている生徒が多い。また、実験を通じて結果から考察を導くときにも自分の考えをまとめることが難しい生徒が多い。また、進路に向けて、1・2年生の復習が家庭学習では十分に組み合っていないことも課題である。</p>	<p>単元の前半は、考え方を理解するために、まとめの例を挙げて、結果から考察への定型を理解し、後半では、自力で考察を論じることができるようにつなげていく。また、基本問題を多くこなし、基本的な事項を反復練習することで、入試対策につなげていく。ITCを利用し、調べ学習での活用に広げていく。</p>	
音楽	<p>全体的ににぎやかで、前向きなパワーにあふれている。小学生時の音楽の授業からポジティブなイメージがあるようで、器楽、歌唱、鑑賞どれも優秀。飲み込みも早い。絶対的な知識量と、教師に頼らない自主性が足りない。</p>	<p>1・2年時にはグループワーク、合唱指導は教師が主導することが多いが、この意欲の高さを生かし、リーダーに指示を伝え、自主性に任せるような授業を心がけたい。 合唱コンクールのパート練習を利用し、歌唱の個別指導を取り入れることで知識の拡充を図りたい。</p>	2
美術	<p>技能の習得について、実技を伴う技能の習得に興味を示す生徒が多い。 また、作品が完成する成就感を持っている生徒も多い。興味や関心を持ちながら取り組める教材を選定する必要がある。</p>	<p>取り組んだことがすぐ結果として見える課題を多く用意し、段階的に技能が身につけていくように教材やICTの活用を工夫をする。 自分が制作したいものに対して、完成までの道のりの全体像もつかませながら、途中の段階の小さな目標を設定し、そこに到達する手助けを心がける。</p>	
保健体育	<p>男子は運動に対する意欲・関心が高く、基礎的な体力、運動能力も高い生徒が多い。女子は意欲・関心もあり、頑張る気持ちもあるが、能力的に厳しい生徒も少数いる。そのような中、お互い励まし合って学び合うことが多い。男女共に目的意識を持たせ、その運動の特性にたくさん触れさせてあげることが必要である。指示されたことに対しては、動きも良く積極的に行動できるが、思考を深めて自ら工夫し、主体的に実践していくことが課題である。</p>	<p>運動量を確保するためにも、生徒主体の活動を確保するためにも、アメージメント行動(準備・移動・待機)の少ない授業を行っていく。また、各種目に応じて自己やグループの能力を知り、適切な課題設定と学び合いができ、主体的に取り組める力をつけていく。さらに、最上級生としての自覚を促すように自主性を大切に指導していく。ICTの活用。</p>	
技術・家庭	<p>年間授業時数が少なく、緻密な授業計画を立てる必要がある。 学習内容を実生活に結び付けることで興味・関心を高める。 家族の立場と役割について関心を持っている。幼児の生活について、意欲的に学習しようとしている。</p>	<p>自ら身の回りの生活にある課題を見つけ、解決する作品作りに取り組めるような授業を展開する。 ICT機器を活用し、効率的に作業を進めることや学習内容が実生活で活用されている例などを示す。 自分の生活や家族について、課題を見つけ工夫させ、幼児の生活の発展に応じて必要な条件</p>	
外国語(英語)	<p>生徒は授業に対して意欲的で、声を出して発音したり、音読したりする活動によく取り組んでいる。ペアでの話し合いもスムーズで、自分の意見や考えを交流させることが自然にできている。一方、教科書改訂に伴い語彙数と文法事項が増え、「読むこと」についての負担感、抵抗感が増していることが課題である。また、入試に向けての英作文において、何を書いているかわからない、または間違いを恐れて書かない、と</p>	<p>デジタル教科書を活用し、教科書の読み取り前に視覚的に情報を入れることで内容理解の手助けとする。副教材を活用し、帯時間で毎時100語程度の読解をくり返し行うことで、長文を読むことへの抵抗をなくしていく。英作文については、モデル文を書くことから始め、パターンに慣れさせたのちに自分自身のことについて書けるように、身近な題材を提示して練習を重ねる。</p>	
道徳	<p>登場人物の心情を読み取ったり、意見交換を行ったりする活動を通して、道徳的な価値を身に付けようとしている生徒が増えてきた。積極的に意見交換する機会を設け、他者の意見を聞いて自分の考えを深められるようにしていく。また、自分の意見を発言できる</p>	<p>生徒が興味関心をもつ教材やICTの工夫を行い、話し合い活動を充実させることによって、自分の考えを深めたり、様々な考えがあることに気付かせていく。また、発言を肯定的に取り上げていく。</p>	

総合的な学習の時間	全体的に意欲的に取り組む生徒が多い。調べた内容を分かりやすくまとめる力も育っている。自分の考えを発表する力を身に付けさせていく必要がある。	調べ学習や調べた内容をまとめ発表する機会を設け、自分の考えをまとめ発表する力を付けさせていく。そのための場面やICTの活用を多く設定していきたい。	
-----------	---	---	--